

図画工作科学習指導案

指導者 横浜市立 谷本小学校 池田 希望

- 1 日時・場所 令和元年 12月 4日(水) 第5校時 場所 図工室
- 2 学年・組 第3学年2組 32名
- 3 「学習の方向性」から題材へ

「学習の方向性」
感じたことや想像したことを、見たことから表したいことを見付け、工夫して表す。

A表現(2) 絵や立体で表す活動

子どもの姿

- 工作や絵をかくことが好きな児童が多い。図画工作の時間を楽しみにし、材料をたくさん用意している。
- 作業の取りかかりに時間がかかる子が多い。
- 「最後まで粘り強く」ということが苦手で、途中でも「もういいか」と投げ出してしまふ姿も見られる。
- 2年生では、段ボールカッターやカッターを使って切る経験をした。

教師の願い

- 自分だけの作品をつくることを楽しんでほしい。
- 自分がつくりたいものに合わせて用具を使い分けてほしい。
- 自分がイメージした作品に近づけることができるよう、工夫してほしい。
- 段ボールを工夫して表したいことを表現してほしい。

題材名

「ざくざく ペったん 自分かんばん」
～だんボールを使い、がんばったことを工夫して表そう～

A表現(2)

題材目標

- 段ボールを主材料にして、形や色、材料などの特徴を生かし、自分がかんばっていることをどのように表すか考えるなどして楽しむことができるようにする。
- つくりたいものに合わせて、段ボールの特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて工夫して表せるよう計画を立てるようにする。
- 自分や友達のつくりつつあるもの、できあがった「自分かんばん」からよさや面白さを感じ取り、実際に飾ってみたり、話し合ったりするようにする。

題材について

本題材では、黄ボール紙に段ボールを組み合わせて、自分の好きなことを表現し伝え合う活動である。今の自分を見つめ直し、自己を投影した自己表現の活動が主体となる。

まずは、3年生になってからがんばっていることをワークシートに書き出していく。ここでイメージをしっかりと膨らませたい。家の中のどこに飾りたいかを意識して、作品の縦か横かなども決める。

次に、段ボールについて。段ボールの特徴である肌合いの素朴さ、力強さ、加工のバリエーションが多いことに気付かせたい。着色では、画用紙とは違い、黄ボール紙は水分を吸収するので、水彩絵の具との相性が悪い。そのため、土台の黄ボール紙の着色に版画用インクを使用する。また、「看板」であることを最後まで意識させ、大きく、はっきりと、分かりやすい作品をイメージさせる。本時では作品に接着剤を付けるが、すぐに取れないような接着を指導する。そして、つくったパーツを重ねたり組み合わせたりするおもしろさに気付くようにしていきたい。

完成後は、2年生や保護者向けに発表を行う。作品を通して3年生になったらこんなことを頑張りたいなど感じてもらうだけでなく、作者の人となりを知ってもらう。人を通して作品を知る、といった取り組みを行うことで、自己表現のひとつとして作品をつくることの有意義さを味わい、図工や自分がかんばるようになるような活動にしたい。

○学習の方向性にかかわる育む資質・能力と本題材との関連
 新学習指導要領の「思考・判断・表現」にもあるように、表したいこと、表し方などについて考え、豊かに発想や構想をする力を身に付けることができるように指導したい。

○本題材における[共通理解]についてのとらえ

〔共通事項〕

- ア. 自分の感覚や活動を通して、形や色、組み合わせなどの特徴をとらえること。
- イ. 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

黄ボール紙と段ボールを使って自己を表現する看板をつくり、3年生になりがんでいることを、形や色を工夫してそれらの組合せによって、自分のイメージをもって表すこと。

4 テーマに迫るために

研究主題

豊かな感性と生きる力をはぐくむ図画工作科の創造

～感じる つくる 考える 子どもの姿を求めて～

部会テーマ

工夫して つくることを楽しむ子どもの姿を目指して

○出あいの工夫

3クラスのそれぞれの担任の「自分かんばん」を用意し、実際に「自分かんばん」の見本を見せ、つくった人が「どんなことをがんばっているか」を想像する。いくつか見せるうちに「自分だったら…」とイメージをもてるようにする。

○場の設定の工夫

教室の机よりもひとまわり小さいサイズの黄ボール紙を用意した。夏から段ボールを集め、材料の確保ができるようにする。

○共感的支援の工夫

自己肯定感が低く、自己否定をする子が多いように感じるため、始めの段階で「自分だったら…」とイメージをすぐにもてない子もいると考えられる。その場合、ワークシートに記述した言葉やキーワードをヒントに、友達や教師との対話を重ねながら表現のイメージを広げていけるようにする。

○小中一貫の視点

イメージを基に形に表すことは、美術 A 表現(1)(3)の「主題などを基に豊かに発想・構想し、独創的・総合的な見方や考え方を生かし、創意工夫して美しく描くなどする。」の能力に繋がっていくと考えられる。

5 題材の評価規準

造形への関心・意欲 ・態度	○自分らしい「自分かんばん」をつくることに関心をもち、段ボールや身辺材料の形や色などの特徴を生かして、つくることを楽しもうとしている。
発想や構想の能力	○段ボールなどを主材料や装飾に使い、材料の形や色の特徴を生かし、「自分かんばん」をつくろうとしている。
創造的な技能	○切りとった段ボールの形や色、材料の特徴を生かして、用具を適切に使い、「自分かんばん」を工夫して表している。
鑑賞の能力	○自分や友達の「自分かんばん」の図や表現の工夫を話したり話し合ったりするなどして、良さを感じ取っている。

- 6 指導と評価の計画 (6時間 本時4/6)
 ア・・・「自分かんばん」について考える。(1時間)
 イ・・・「自分かんばん」をつくる。(4時間)
 ウ・・・作品を鑑賞し合う。(1時間)

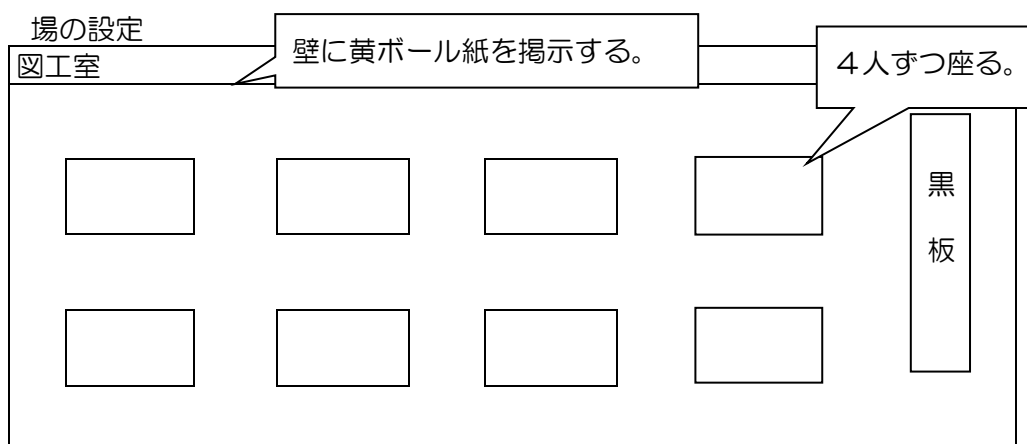
	子どもの学習活動	評価規準	教師の指導
1時	ア 「自分かんばん」について考えよう		
	<p>○「自分かんばん」を見て、看板の目的や特徴を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この看板を作った人は、「読書」が大好きなんだね。 ・ぼくも「読書」だいすき。 <p>○自分を表す看板を考え、言葉でイメージを広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だったら… ・サッカーを頑張っているけど、どうしたら伝わるかな。 	<p>関</p> <p>発</p>	<p>○参考作品を見せることで、計画書をつくりゴールをイメージできるようにする。</p> <p>○サッカーや野球だけではなく、「字をきれいに書くこと」や「算数」などさまざまな視点で自分を見つめる時間を十分に確保する。</p>
2 3 4 (本時) 5時	イ 「自分かんばん」をつくろう		
	<p>○土台となる台紙に色をつける。身近な材料や用具を、目的に合わせて工夫し、作品に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きい部分はローラーを使って塗ろうかな。 ・サッカーだから、芝生みたいに緑色の土台にしよう。 <p>○「がんばっていること」のパーツをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番伝えたいことは大きくしようかな。 ・遠くからでも見えるかな。 ・同じものをたくさんつくって重ねてみよう。 ・フォークで押したりひっかいたりして、模様をつけてみようかな。 <p>○土台にパーツをつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこに置くといいかな。 ・落ちないようにしっかりと接着しよう。 	<p>関</p> <p>発</p> <p>技</p>	<p>○版画インクを使う場を用意しておく。あらかじめ、何色かつくって用意しておく。</p> <p>○画用紙とは違う色合いになるので、事前にいくつか塗ったものを用意して見せる。(題字の看板)</p> <p>○段ボールをたくさん用意しておき、納得いくまで次の段ボールを使えるようにする。</p> <p>○接着剤の使い方を指導する。</p>
6時	ウ 作品を鑑賞し合おう		
	<p>○「谷本トライアル」で、2年生に、3年生になってがんばっていることを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生になったら、こんなことを勉強するのか。 ・もっと話してみたいな。 	<p>関</p> <p>鑑</p>	<p>○鑑賞の時間をとり、作品のよさや表現の意図を考えることで、自分の見方や感じ方を深められるようにする。</p>

7 準備

児童：鉛筆、段ボール、木工用接着剤、はさみ

教師：ローラー、水溶性版画インク、黄ボール紙、カッター

8 場の設定



机上には、①カッターマット②カッター用定規③小物立て④カッターの使い方について⑤段ボールセット（薄い段ボールと厚めの段ボール）⑥はさみ⑦木工用接着剤授業が始まったら、各自が用意した筆記用具を小物入れに入れ、カッターを渡す。

9 本時の計画（4/6時）

(1) 本時目標： 段ボールを切ったり組み合わせたりし、工夫して「自分かんぱん」を表現することができる。

(2) 本時の展開

子どもの学習活動	具体の評価規準と評価方法	教師の指導
<p>ざくざく、ぺったん、ぺりぺり！ がんばったことを工夫して表そう！</p>		
<p>○カッターを使う準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の上に必要ないものは置かないようにしましょう。 ・床に置くのも危ないね。 <p>○段ボールを使い工夫して表現をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカーボールの柄を切り取って表現しよう。 ・ピアノは鍵盤をたくさん重ねようかな。 ・段ボールをはがした裏も色が違っておもしろいな。何かに使えないかな。 ・粘土ベラで傷をつけてもおもしろいな。 <p>○作るときに工夫したことや友達の作品で気付いた工夫を互いに話して見合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの作品は遠くから見ても△△だと分かりました。 ・重ねて模様をつけました。 	<p style="text-align: center;">技</p> <p>○安全に気を付けてカッターを扱う。</p> <p style="text-align: center;">発</p> <p>○経験した技を使って、思いのままに表現している</p> <p style="text-align: center;">鑑</p> <p>○友達の作品を鑑賞し、よさや面白さを感じとっている。</p>	<p>○安全に気を付けて作業できるように、使い方を各机の上にセットする。</p> <p>○「重ねる」「はがす」「さす」など工夫して段ボールに仕上げをするために、題字を見せながら紹介する。</p> <p>○作っている時、児童が完成イメージをもてるよう、黄ボール紙を壁面にはる。</p> <p>○作品を机の上に置き、歩いて見合う時間をつくる。</p>

